



平成 29 年 11 月 20 日

関係団体 各位

埼玉労働局長



・平成 29 年度 埼玉年末・年始無災害運動の実施について(要請)

時下、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

埼玉労働局では、平成 25 年度から 29 年度までの 5 年間を計画期間とする埼玉第 12 次労働災害防止計画(以下「埼玉 12 次防」という。)において、労働災害による死亡者数を平成 24 年と比較して 20%以上減少させ、死傷者数を同じく 15%以上減少させることを目標とし、さらに、重点業種として、第三次産業の小売業、飲食店、社会福祉施設及び陸上貨物運送事業について死傷災害の減少を、製造業及び建設業について死亡災害の減少を図るため、労働災害防止に係る取組を推進しています。

埼玉県内の本年 10 月末日現在の労働災害の発生状況は、死亡者数は全産業で 21 人(昨年同期比で 6 人減少)となり、製造業では 3 人(同 5 人減少)、陸上貨物運送業では 2 人(同 5 人減少)となっていますが、建設業では 9 人(同 5 人増加)となっており、すでに埼玉 12 次防の数値目標である 8 人を超え、また、昨年 1 年間の死亡者数 6 人を上回っています。

一方で、休業 4 日以上死傷者数は、全産業で 4,112 人と昨年同期の 4,078 人に比べ 34 人増加となっています。製造業は 975 人(同 30 人減少)となっていますが、特に建設業では 472 人(同 74 人増加)、陸上貨物運送事業と 770 人(同 32 人増加)となっています。加えて、第三次産業のうち、重点業種である小売業は 489 人(同 34 人減少)、飲食店は 155 人(同 14 人減少)、社会福祉施設は 234 人(同 15 人減少)となつてはいるものの、これら 3 業種とも 10 月末日時点ですでに埼玉 12 次防の数値目標を上回る死傷者数となっており、これらの業種の労働災害に歯止めをかけることが喫緊の課題となっています。

このような状況の中、年末年始の繁忙期を迎え、貨物量の増加、気象条件や交通事情等により作業環境が変化しやすくなることに加え、設備の点検、補修、清掃等非定常作業等が多くなることなどに伴って、労働災害の増加が懸念される時期となります。

このため平成 29 年 12 月 1 日から平成 30 年 1 月 15 日までの間、「埼玉年末・年始無災害運動」を別添「実施要領」により取組みますので、貴団体におかれましても趣旨をご理解のうえ、貴会会員の皆様において特に下記の事項について取組が推進されるようご配慮をお願いします。

記

- 1 経営トップによる年末年始時期に係る安全衛生方針の決意表明
- 2 安全衛生管理体制の確立、確認
- 3 リスクアセスメント及び労働安全衛生マネジメントシステムの積極的な導入・定着
- 4 メンタルヘルス対策・過重労働対策の推進
- 5 非定常作業における労働災害防止対策の徹底
 - 作業計画、作業マニュアルの点検、確認、作成
 - 作業計画、作業マニュアルに基づく安全衛生教育の実施
 - 作業計画に基づく作業開始前ミーティングの実施
- 6 KY(危険予知)活動を活用した「現場力」の強化と 5S の徹底
- 7 安全衛生パトロールの実施
- 8 業務繁忙期における無理な計画に基づく作業の排除
- 9 職場の整理・整頓・清掃・清潔(4S)の徹底
- 10 火気の点検、確認等火気管理の徹底
- 11 降雪期を考慮した交通労働災害防止ガイドラインに基づく交通労働災害防止対策の推進
- 12 荷主として運送事業者へ荷役作業を行わせる場合の荷台からの墜落防止の安全対策
- 13 「Safe Work SAITMA」のキャッチフレーズ、ロゴマークの活用による安全衛生の意識高揚



埼玉年末・年始無災害運動実施要領

埼玉労働局では、平成 25 年から 29 年までの 5 年間を計画期間とする埼玉第 12 次労働災害防止計画(以下「埼玉 12 次防」という。)において、労働災害による死亡者数について平成 29 年に平成 24 年と比較して 20%以上の減少、死傷者数について同じく 15%以上の減少を全体目標とし、さらに、その実現性を高めるために重点業種を定め、第三次産業のうちの小売業、飲食店、社会福祉施設及び陸上貨物運送事業に対して死傷災害の減少を、製造業及び建設業に対して死亡災害の減少を数値目標として労働災害防止に係る取組みを掲げ推進している。

県内における本年 10 月末日現在の労働災害の発生状況をみると、死亡者数については、全産業で 21 人と前年同期比で 6 人(22.2%)減少している。業種別では、製造業で 3 人と前年同期比 5 人減少、陸上貨物運送業で 2 人と同 5 人減少となっているが、建設業では 9 人と同 5 人増加しており、すでに埼玉 12 次防の数値目標である 8 人を超え、また、昨年 1 年間の死亡者数 6 人を上回っている。

一方、休業 4 日以上死傷者数については、全産業で 4,112 人と前年同期 4,078 人に比べ 34 人(0.8%)増加している。

工業的業種では、製造業では 975 人と前年同期比で 30 人(3.0%)減少しているが、建設業では 472 人と同 74 人(18.6%)増加しており、建設業については、死亡、休業災害ともに前年から大きく増加している事情を踏まえ、埼玉労働局においては今年の 8 月と 11 月の 2 回にわたり、建設業の関係団体あて労働災害防止の取組を緊急要請しているところである。

また、第三次産業では、小売業で 489 人と前年同期比 34 人(6.5%)減少、飲食店で 155 人と同 14 人(8.3%)減少、社会福祉施設で 234 人と同 15 人(6.0%)減少、陸上貨物運送事業では 770 人と同 32 人(4.3%)増加している。ただし、減少している 3 業種についても、埼玉 12 次防の数値目標である小売業 488 人、飲食店 147 人、社会福祉施設 189 人を、すでに 10 月末の時点で上回っていることから、依然、第三次産業における労働災害に歯止めをかけることが喫緊の課題となっている。

このような状況の中、年末年始の繁忙期を迎えて、貨物量の増加、気象条件や交通事情等により作業環境が変化しやすくなることに加え、事業場、職場が一斉に操業を停止・開始する際や大掃除を行う際等に非定常作業等が行われることなどに伴って、労働災害の増加が懸念される時期となる。

このため、埼玉、千葉、東京、神奈川の 4 労働局が推進している「Safe Work」のキャッチフレーズの下、各事業場、職場における年末・年始にかけての安全衛生意識を高め、労働災害防止の運動を積極的に展開することにより、死亡災害及び死傷災害の発生を防止するため、「埼玉年末・年始無災害運動」を実施する。

1 目的

各労働災害防止団体等が推進する年末・年始時期を捉えた労働災害防止強調期間、無災害運動等との連携により、管内事業場における安全衛生意識の高揚を図るとともに期間中に埼玉労働局及び管下各労働基準監督署並びに各関係団体・各事業場が展開している各種取組を一層推進し、もって死亡災害及び死傷災害の防止を図る。

2 実施期間

平成 29 年 12 月 1 日から平成 30 年 1 月 15 日まで

3 主唱者

埼玉労働局、管下各労働基準監督署

4 実施者

事業者

5 主唱者の実施事項

- (1) 労働災害防止団体、事業者団体、建設工事発注機関等に対する協力要請
- (2) 年末年始に労働災害の多発が懸念される業種に対する指導・要請
- (3) ホームページ、記者発表等による広報
- (4) 事業者、労働災害防止団体等が行う労働災害防止活動に対する指導・援助
- (5) 「Safe Work SAITAMA」の普及促進

6 事業者の実施事項

- (1) 経営トップによる年末年始時期における安全衛生方針の決意表明
- (2) 安全衛生管理体制の確立、確認
- (3) リスクアセスメント及び労働安全衛生マネジメントシステムの積極的な導入・定着
- (4) ストレスチェック結果等を活用したメンタルヘルス対策・過重労働対策の推進
- (5) 非常作業における労働災害防止対策の徹底
 - ・作業計画、作業マニュアルの点検、確認、作成
 - ・作業計画、作業マニュアルに基づく安全衛生教育の実施
 - ・作業計画に基づく作業開始前ミーティングの実施
- (6) K Y (危険予知) 活動の実施
- (7) 安全衛生パトロールの実施
- (8) 業務繁忙期における無理な計画に基づく作業の排除
- (9) 職場の整理・整頓・清掃・清潔(4S)の徹底
- (10) 火気の点検、確認等火気管理の徹底
- (11) 降雪期を考慮した交通労働災害防止ガイドラインに基づく交通労働災害防止対策の推進
- (12) 荷主として運送事業者に荷役作業を行わせる場合の荷台からの墜落防止の安全対策
- (13) 「Safe Work SAITAMA」のキャッチフレーズ、ロゴマークの活用による安全衛生の意識高揚

7 重点実施事項

(1) 全業種共通

- ア 事業者の安全衛生方針の確認、所信表明
- イ 4S (整理・整頓・清掃・清潔) 活動の推進
- ウ 床等の水、油、氷等の清掃、除去による転倒災害の防止
- エ 脚立、梯子等の正しい使用方法による墜落・転落災害の防止
- オ 床面、通路、階段等の設備改善による転倒災害、墜落・転落災害の防止
- カ 無理な姿勢による荷の取扱作業の排除による腰痛の防止
- キ 荷役作業安全ガイドラインに基づく荷役作業時の安全確保
- ク 交通法規、自動車運転車労務改善基準の遵守による交通労働災害の防止
- ケ 雇入れ時の安全衛生教育の徹底
- コ 積雪、凍結による転倒災害の防止対策

(2) 製造業

- ア 加工用機械、運搬装置等の安全装置、安全カバーの設置によるはさまれ・巻き込まれ災害の防止
- イ 労働安全衛生規則改正された食品加工用機械の対策の実施
- ウ 非定常作業、故障時のマニュアル確認及び安全作業の徹底
- エ 通路、階段、作業床等の墜落、転倒防止のための改善
- オ フォークリフト、クレーン等の資格者の確認と資格者による作業
- カ 用具の正しい使用方法による作業
- キ 重量物扱いの災害性腰痛、捻挫防止のための正しい方法による作業

(3) 建設業

- ア 法令に基づく足場の設置、開口部の手すり等の設置又はそれらを設けることが困難な場合の安全帯の使用による墜落・転落災害の防止
- イ 足場先行工法、手すり先行工法の実施
- ウ 車両系建設機械、クレーン等に係る作業半径内立入禁止措置等安全作業の徹底
- エ 労働安全衛生規則改正された解体用機械の対策の実施
- オ 携帯用丸のこ盤の安全教育の徹底と歯の接触予防装置の確実な使用
- カ 作業計画に基づく適切な作業
- キ 足場等の防護ネットの設置等による高所からの落下物災害の防止
- ク 脚立、梯子、ワイヤーロープ等の点検と特に梯子使用時の緊結、転位防止、昇降時の安全ブロック及び安全帯の使用等適切な作業方法による作業
- ケ 作業主任者の作業指揮に基づく作業
- コ 新規採用者に対する安全衛生教育の実施

(4) 陸上貨物運送事業

ア 過労運転及び降雪、凍結による交通労働災害の防止

イ 「陸上貨物運送事業における荷役作業の安全対策ガイドライン」に基づく次の災害防止対策

- ① 荷台からの墜落・転落防止
- ② フォークリフト、クレーン等の災害防止
- ③ コンベヤーによる災害防止
- ④ ロールボックスパレットによる災害防止
- ⑤ 転倒による災害防止
- ⑥ 腰痛防止対策
- ⑦ 荷崩れ又は荷の落下による災害防止
- ⑧ 陸運事業者と荷主との連絡調整

(5) 小売業・飲食店

ア 4S (整理・整頓・清掃・清潔) 活動の推進等による転倒・転落災害の防止

イ 労働安全衛生規則改正された食品加工用機械の対策の実施

ウ 刃物、脚立、梯子等の正しい使用方法による作業

エ 「安全推進者の配置等に係るガイドライン」に基づく安全推進者の配置

オ 職場の危険箇所の「見える化」の実施

(6) 社会福祉施設

ア 新規開設時の安全衛生対策の確認

イ 法令に基づく安全衛生管理体制の整備

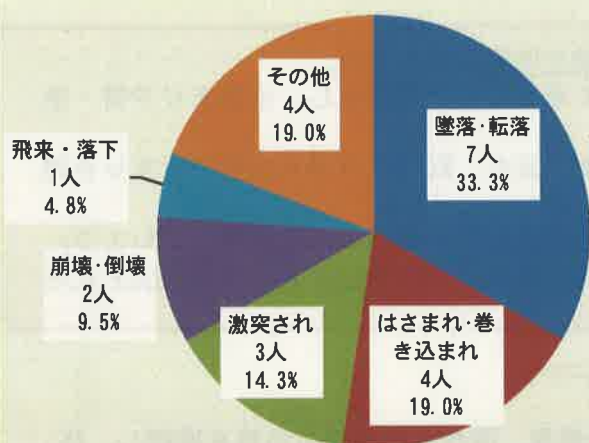
ウ 4S (整理・整頓・清掃・清潔) 活動の推進等による転倒・転落災害の防止

エ 無理な姿勢による作業の排除、補助具等の利用による腰痛の防止

オ 職場の危険箇所の「見える化」の実施

死亡災害(前年同期比 平成29年10月31日現在・速報値)

業 種	平成28年	平成29年	増減
製造業	8	3	-5
建設業	4	9	5
交通運輸事業	0	0	0
陸上貨物運送事業	7	2	-5
農林業	1	0	-1
その他	7	7	0
全産業	27	21	-6



災害の型別 発生状況

埼玉労働局管内における**死亡災害は平成29年10月31日現在で21人**です。

昨年同期比で、全産業では**6人の減少**となっていますが、建設業では**5人の増加**となっています。

災害の型別で見ると、高所から墜落する災害に7人、作動中の機械にはさまれ・巻き込まれる災害に4人、車両や重機等に激突される災害に3人が被災しており、これら3つの型で死亡災害の3分の2を占めています。

死亡災害事例(抜粋)

- ① 掘削溝内で作業していたところ、周りの土砂が崩落して生き埋めとなった
- ② 雑草処理のため路肩部分の転落防止柵を乗り越えたところ、バランスを崩して約3m下にある水深2.5mの調整池に転落して溺死した
- ③ 高さ1.3mの2tトラックの荷台上で作業していた際、荷台から墜落した。
- ④ 建屋2階の搬入口からフォークリフトを搬入するため、搬入台の設置作業を行っていたところ、搬入台2層目から墜落した。
- ⑤ 資材置き場内でトラックに乗り込み後進したところ、手押し台車を押していた別会社の作業員に気付かず巻き込んだ。

死亡災害が急増しています (8月・3人、9月・1人、10月・4人)

墜落・転落災害防止対策

- 1 高所での作業には、足場等により作業床を設け、墜落防止用の囲い、手すり等を設けましょう。
- 2 作業床を設けることが困難な場合には、親綱を設置し安全帯を使用しましょう。
- 3 屋根・建物の解体や修理、ソーラーパネル設置など、短期間で終了する高所作業の場合には、親綱と子綱（安全ブロック）を使用しましょう。
- 4 はしごを使用する時は、上部と脚部に転移防止措置を講じましょう。また、昇降時には親綱又は安全ブロックを使用しハーネス型安全帯の使用に努めましょう。*脚立についても3点支持で使用しましょう。



はさまれ・巻き込まれ災害防止対策



- 1 機械に身体が入らないよう囲い、覆い等を設け、安全装置については有効に機能するよう保持しましょう。
- 2 点検、修理、掃除、調整等を行う場合には、機械を停止し、施錠・表示板等により不用意に他の者が作動させることを防止する措置を講じましょう。
- 3 使用する機械に応じて危険予知訓練及び安全衛生教育を実施・徹底しましょう。

転倒災害防止対策



- 1 4S（整理・整頓・清潔・清掃）活動を徹底しましょう。
- 2 床面・通路は、くぼみや段差がなく滑りにくい構造とし、水たまりや雪・氷は除去しましょう。
- 3 通路・階段・出入口に物を放置せず、また、階段には滑り止めや手すりを設けましょう。
- 4 履物は、滑りにくく安定したものを着用し走らないことを徹底しましょう。
- 5 冬場の降雪・凍結による転倒・交通事故を防止しましょう。⇒スタッドレスタイヤの装着を。

荷役作業時の災害防止対策

- 1 予め、従事者の役割分担、運搬物の重量、適切な荷役用具、荷台への昇降方法等を確認し、作業上の安全確保を確実にしましょう。
- 2 フォークリフトによる荷役作業を行う場合、上記に加え、フォークリフト運転者の資格の有無、搬送ルート、フォークリフトの能力、荷台への積み方、従事者相互の合図等を確認しましょう。
- 3 荷役作業場は作業者と車両の通行帯を明示する、死角となる個所にはミラー等で視界を確保する、適切に照明を配置する等、作業環境を整備しましょう。
- 4 荷主と運送事業者との間で、定常的な荷役業務が行われる場合は、相互に安全作業に関する情報を共有するための協議の場を設けましょう。

「Safe Work SAITAMA」（セーフワークさいたま）について

埼玉労働局では、「Safe Work SAITAMA」（セーフワークさいたま）をキャッチフレーズとして、平成25年度より「埼玉第12次労働災害防止計画」に取り組んでいます。

「Safe Work SAITAMA」ロゴマークは、労働災害の防止などを目的とする場合には自由にご活用いただけます。

詳しくは埼玉労働局ホームページ

(<http://saitama-roudoukyoku.site.mhlw.go.jp/>)

をご覧ください。



「Safe Work SAITAMA」ロゴマーク